

ヒートアイランド対策のモデル事業

# 体感で5℃低い街

## 埼玉・白岡に戸建て21区画

### ポラス中央住宅



上田知事(中央)より認定証を授与された品川社長(中央左)と同社スタッフ

ポラスグループ・中央住宅(品川典久社長)が開発した戸建て分譲地「風と緑のまち白岡」(21区画)が、埼玉県

の創設した「先導的ヒートアイランド対策住宅街モデル事業」に選定された。このほど上田清司埼玉県知事より、認定証が品川社長に授与された。

夏季になると、毎年のように県内で最高気温を記録するなど、近年、埼玉県は平均気温が上昇傾向にある。熱中症や暑さによる健康被害を重く受け止めている県では、公的施設などにおいては県主体の対策を進めているものの、民間開発では一本化した対策が立てられていないのが現状。

同先導的モデル事業を通じて、民間事業者に対策を促すのが狙い。

品川社長は授与式で、「住宅を供給するとCO2排出は避けられず、住宅会社としてヒートアイランド対策に取り組まなければならない。現地の状況に合わせて、今後も小規模区画の開発から、可能な限りの対策を取り入れた住宅の供給とまちづくりに取り組む」と抱負を語った。既に半分以上の区画が早期に成約し、販売の手心えを感じている。

引き続き、ヒートアイランド対策に主眼を置いた分譲地開発の広域展開に全力を挙げていきたい考えだ。

上田知事は、県下でも共働き世帯が増えているのを踏まえ、「経済的な余裕があると、多くの子供を育てやすい。県が目指す子供3人家族に適した住宅の供給にも頑張ってもらいたい」と期待を述べた。

ポラスグループでは、県のモデル事業を踏まえ、「街そのものがクールアイランドになるまちづくり」のコンセプトを掲げ、「パッシブ・アイランドデザインシステム」を独自に構築し、モデル事業となった「風と緑のまち白岡」で初めて採用した。

構築にあたっては、①立地環境や気象の解析に基づいた区画や配棟の設計、②環境素材の選定、③自動散水や雨水の利用、④緑のカーテン、木陰のクールスポットなどや風の通り道に緑の壁を採用するなど緑の積極利用、⑤隣棟間隔を最低1.8倍以上確保し、涼風を街中にいきわたらせる、といった対策を随所に取り入れた。

同社によると、「体感温度でマイナス5度、空間温度でマイナス3度の分譲地を実現できた」としている。



カースペースも植生と保水ブロックで対策

白岡市は、メディアの「住みよきランキング」で埼玉県内1位に選ばれた、人口約5・2万人の中核都市。東京都心まで約40分圏に位置。現